

「拡大EUを知る」第3回セミナー  
「スロヴェニアからの招待状」

日時：平成20年11月11日

場所：国際健康開発センター3階 交流ホール

皆さんこんにちは。私はスロヴェニア大使スケンデルです。初めに、少し日本語でスロヴェニアについて説明します。

スロヴェニアは、ヨーロッパの緑の宝庫、陽の当たる側にある国です。日本で言う四国ほどの国土の中に山や湖、変化に富んだ地形をあらゆる海岸線、カースト地帯、中世の歴史を物語る城や遺跡などなど、バラエティーに富んだ名所がいっぱい詰まっています。1991年に旧ユーゴスラビアから独立後、スロヴェニアは世界各国から観光客が訪れるようになりました。スロヴェニアは、2004年5月のEU加盟により日本とつながりを深め、さらに2007年1月よりユーロの導入をいたしました。今年の前半は私たちがEU議長国を務め、大成功をおさめました。ここまでは日本語で、これからは英語講演します。

1枚目のスライドですけれども、アイ・フィール・ラブと読むことができますでしょうか。スロヴェニアは、国の名前の中でラブという言葉が入っている唯一の国です。では、スロヴェニアのお話にはいりましょう。

私の講演を通して、皆様に、スロヴェニア、そして私からのラブを感じていただきたいと思います。

これは、ヨーロッパの地図です。黄色く塗られたところがスロヴェニアで、ヨーロッパの中央部に属しております。大きくもなく小さくもなく、中ぐらいの面積です。小さな国と言えばルクセンブルグ、マルタ、キプロス、リトアニアなどがあります。この地図でもわかるように、ヨーロッパの中心部に位置していますので、ヨーロッパの主要な拠点に非常に近いです。スロヴェニアからベニスまでわずか100キロメートル、ウィーンまではわずか245キロメートル、ミラノにも400キロメートルといった具合に、とにかくヨーロッパの主要な都市には非常に簡単にアクセスできる所にあります。スロヴェニアは2004年にEUに加盟しました。2007年に、2カ国が加盟しましたので、今EUは27カ国が加盟しています。そして、スロヴェニアはユーロゾーンへも加入しています。スロヴェニアにとりまして、EUに加盟すると決めたことは、非常によいことだったと考え

ています。小さな国にとりましてEUは素晴らしい連合体です。国の発展と安定のために、EUは、我々に多大な力を与えてくれます。

EUのお話はまた後にして、スロヴェニアの各地域を詳しくお話をしていきたいと思えます。この航空写真はスロヴェニアの首都、リュブリャナです。一番上に映っているのがリュブリャナ城です。そして、新しい町並みと古い町並みが混在していますが、下の方はまだ古い町並みが残っているところです。そしてここが、リュブリャナの中心です。リュブリャナはローマ帝国によって、およそ2000年前につくられました。そのときの都市の名前はエモナでした。それ以降、リュブリャナは発展を遂げ、今現在はスロヴェニアの首都となっています。

では、リュブリャナの町をもう少し詳しく見ていきましょう。リュブリャナの写真を今からお見せしますが、もっと詳しくお知りになりたい方は、2階にヨージェ・プレチニク展を開催していますので、ぜひご覧ください。このリュブリャナは、今申し上げましたヨージェ・プレチニクが都市計画をし、90年前につくられた町です。

これは、ドラゴンブリッジと言います。ドラゴンは守り神です。

今お見せしている傘がいっぱい出ているこの写真は、野菜市場です。日本人の皆さんは、このようなマーケットをお好きだと思います。ここで何でも見つけることができます。

最初にお見せした空撮の写真の中で、川が流れていたと思います。ちょっと振り返って見ていただきましょう。これがリュブリャナ川です。この川は、町をずっと囲むように流れています。ボートを利用して、リュブリャナの市の中心を移動することができます。橋をご覧くださいませ。これもヨージェ・プレチニクが作ったものです。

次のこのモニュメントは、有名なスロヴェニアの詩人、フランツェ・プレシエレンで、その広場をプレシエレン広場と言います。およそ200年前に生まれた詩人で、スロヴェニアで最も有名な詩人です。

それでは、リュブリャナから北部を見てみましょう。ヨーロッパの南アルプスにあたり、ユリアンアルプスと呼ばれています。このアルプスには美しい場所がたくさんあります。

これは、最も有名な美しいブレッド湖です。日本から来られる観光客の皆さんは、必ずこのブレッド湖を訪れます。湖の中に小島が浮かんでいますけれども、その中に800年の歴史を誇る教会と1000年の歴史を誇るお城が建っています。この小さな島で結婚式を挙げるカップルが多く、日本人のカップルも結婚式を挙げに来られます。

またこの地域は、有名なリゾート地で、この写真からは見えませんが、スロヴェニアで

最も大きなゴルフコースもあります。これも100年の歴史を誇る24ホールあるゴルフコースです。多くの日本人の方、特にヨーロッパに赴任しているような日本のビジネスマンがプレーをしに来ます。

このアルプス地域には、ブレッド湖のような美しい川がたくさんあります。スロヴェニアでは、自然をなるべくきれいな状態に保つように、自然保護に尽力しています。

こちらは、ボヒニ湖です。ブレッド湖から20キロメートル離れたアルプスにある美しい湖です。最初にご紹介した湖と2番目の湖の違いは、完全に自然保護されているかどうかです。この湖の周りには、ビルを建てないように、自然な状態で残そうとしています。

このすばらしい景観は、ローガ溪谷と言います。30キロメートルにも渡って美しい景観が続きます。この写真から、自然保護にどれ程力を注いでいるのかわかりただけだと思います。国土の6割が森林に覆われています。自然が、もっとも良い状態に保たれるように尽力しています。

こちらでは、レジャーと自然の融合という一例をお見せしましょう。レジャーといえますと、ここではラフティング、カヤックといったレジャーを楽しむことができます。こちらは、非常に人気のあるラフティングコースで、素人の方でもリバーラフティングをしていただけるような便利な設備が整っています。

その他、人気のあるスポーツとして、スキーがあります。これは、クラニスカ・ゴラというスキーリゾート地です。日本人スキーヤーも来られます。世界最大のジャンプ施設も擁し、大会も開催されますので、日本のジャンパーも来られます。アルペンスキージャンプのワールドカップをこの地で開催しました。こちらと同じスキーリゾート地の写真です。ただ、最近の世界共通の問題として、気候変動による雪不足が起きています。何とか人工雪で補おうとしています。スロヴェニアも日本と同じような問題を抱えています。

それでは、南の地域に行ってみましょう。スロヴェニアは小さい国ですが、多様性に富んだ国です。先ほどはアルプス地域をご紹介しましたが、これより南部のアドリア海付近をご紹介したいと思います。アルプスからアドリア海の港まで、車で1時間、美しいピランという町に着きます。代表的な中世の香りを残す地中海の都市です。最近では日本の観光客もピランによく訪れるようになりました。

これは、作曲家でありバイオリニストとして有名なパルティエニのモニュメントです。16世紀に、このピランで生まれたということから、銅像が建てられました。当時のピランはベニス共和国の支配下にありました。

これは、海岸地域の町です。ここでは、15世紀、16世紀から伝わる従来の方法で塩をつくっています。非常に高品質な塩がとれます。日本でも買うことができますが、非常に高いです。手づくりの塩は、品質が高いので、カクテルにも日本の天ぷらにも最適です。この写真は、塩の博物館と塩田です。従来の方法で実際に製造しているところです。夏の期間は実際に博物館に行って、塩づくりを見学することができます。塩を買うこともできます。

こちらは、最大のリゾート地で、人気のあるポルトローシュです。スロヴェニアの国内や近隣の諸国から多くの観光客がやってきます。スロヴェニアは小さな国ですが、年間2,200万人の観光客が集まっていますが、残念ながら日本からの観光客はそれほど多くありません。しかし、日本からの観光客の数は、増えています。今年は5万人が訪れ、昨年と比べると70%増加しています。2年後には、日本の観光客を10万人に増やし、日本人にとって、スロヴェニアを人気観光地のひとつとなるようにしたいと考えています。ポルトローシュも日本人に人気の観光スポットです。

そして、今お見せしているのが、カルスト地域ですね。カルストとは、自然な現象でできた地形という意味です。これは水の流れによって、石灰岩が侵食し、この鍾乳洞ができていきました。何百万年もかかってこの形が作られ、何千もの鍾乳洞が発見されています。しかし、一般公開されているのは、ほんの一部です。これは、シュコツヤン鍾乳洞です。ユネスコの世界遺産に登録されて保護されています。この鍾乳洞は、一般公開されていません。

次の写真は、間欠湖で、干上がったたり、また湖が形成されたりする非常に珍しい湖です。こちらの方、先ほど何千あると申し上げたカルスト洞窟は、8,000あります。

今お見せしているのが、有名なポストイナ鍾乳洞です。全長25キロメートルあり、トロッコみみたいなものに乗って観光することができます。非常に有名で人気のあるスポットです。自然にこの地形がつくられ、全く手を加えていません。日本人はこのような自然が大好きだと思います。

皆さん、リピッツァーナという白い馬をご存じでしょうか。スロヴェニアはこのリピッツァーナの発祥の地です。ハプスブルグ時代の宮廷で使われていた白馬のことです。また、ウィーンのシェンブル宮殿でも同じ馬が使われています。ウィーンにあるスペイン乗馬教室では、リピッツァーナがどのように飼育されるかについてご覧になることができます。乗馬に興味のある方は、このリピッツァーナもよいと思います。

次に、東方を見てみましょう。これは、ワイン製造のための葡萄畑です。ワインの製造

はスロヴェニアにとって非常に重要です。スロヴェニアでは大きく3つの地域で、ワインがつくられています。最初にご紹介したい最も重要なワインの製造地域は、イタリアに近いところです。赤、白のフレンチタイプのワインが、このイタリア国境近くで作られていて、最高級のワインのみ製造しています。実は今日、この後の交流会のために何本かお持ちしております。先ほどご説明したイタリア国境近くのワイン製造地域から持ってまいりましたので、交流会参加者の皆さんには、少しずつですが、テイスティングしていただこうと思っています。スロヴェニアのワインは、日本でもご購入いただけます。スロヴェニアで製造したのでスロヴェニアワインと呼ばれ、隣国のイタリアで製造されるワインとは違うように思われますが、同じ種類の葡萄から作られているので、イタリアのワインと味は同じです。イタリアで製造されたワインのラベルは、コーリオという名前で日本に輸入されています。ラベルは違いますが、このコーリオというワインは、スロヴェニアでもつくられています。コーリオとは、小さな丘という意味です。ぜひ、ワインショップに行ったら、探してみてください。コーリオと書かれているワインは、イタリアもスロヴェニアもあると思います。

2つ目の地域は、オーストリア国境付近で、ドイツタイプのワインが作られています。白ワインが主で、少し糖度が強いものが作られています。

そして、3つ目の地域は、スロヴェニアの中心部です。この地域では、主に赤ワインを主に作っています。これは、まさに地元のワインです。スロヴェニア特別の種類で、他のヨーロッパ地域では余り飲めないようなワインです。いろいろ申し上げましたが、スロヴェニアワインを楽しんでいただく一番良い方法は、現地スロヴェニアに来ていただくことでしょう。

さて、私の講演は、1部と2部と分かれておりまして、これで1部を終えようとおもいます。観光とスロヴェニアの基礎的な情報をお話ししてきました。ここまでのところで何かご質問がないでしょうか。なければ、第2部のビジネス、経済のお話に入らせていただきます。

企業からお越しの方に特に申し上げたいのですが、スロヴェニアでビジネスを始めたいとお考えの方をぜひスロヴェニアにお招きしたいと思っています。では、今から経済面そしてヨーロッパの中のスロヴェニアにつきましてお話をしたいと思います。

スロヴェニアはEU加盟国であり、ユーロゾーンにも加盟しています。2004年、新規10加盟国のうちの一つです。スロヴェニアは中でも、先進国であると言えます。

スロヴェニアをパートナーとしてやっていくために、スロヴェニアは、4つの高いクオリティを持った国であることをご理解いただきたいと思います。この4つのクオリティというのは、質の高い労働力を持ち、EU市場への質の高い結びつきがあり、質の高いインフラを持ち、質の高い生活を送っているということです。では、それぞれに見ていきましょう。

もし皆さんがスロヴェニアに投資をしたい、共同プロジェクトをスタートさせたい、もしくはEUでのセールス拠点をもちたいと思われているのであれば、スロヴェニアにはたくさんのメリットがあります。あらゆる要素を兼ね備えた国、それがスロヴェニアです。教育面も充実しています。これは非常に重要なことだと思います。ほかのヨーロッパの国々と比べても、スロヴェニアの教育には良い点が多々あります。ですから質の高い労働力や人材を提供できるわけです。労働力ということにつきましては、日本とスロヴェニアは多くの特徴が共通していると思います。例えば品質に重点をおき、能力があり、時間を守る、そして企業マナーも大切にするといったところは、共通していると思います。賃金の安さでは、ルーマニアやブルガリアの方が安いので、スロヴェニアが最も安いというわけにはいかないかもしれません。しかし、EUの中では質の高い労働力と人材を有している点では、スロヴェニアはとても魅力的な国だと思います。先端技術を利用した製造業などの拠点を探したいと思われるならば、是非スロヴェニアにお越しく下さい。素晴らしい人材がいます。

また、私の年代では8割、9割の人は英語を自由に話すことができ、英語だけでなく他の言語も話すことができる人もいます。小さな国ですから、できるだけ多くの言語を話す必要性があります。母国語はスロヴェニア語ですが、一旦国の外に出るとなかなか通じません。ですから、スロヴェニア人は少なくとも3カ国か4カ国の言語を話します。日本の企業がヨーロッパに進出して操業したいならば、マルチリンガルで人材豊富なスロヴェニアをお考えください。例えばイタリアの国境近くに住むスロヴェニア国民の100%がイタリア語を、オーストリア国境近くに住むスロヴェニア国民の100%近くがドイツ語を話します。ハンガリー国境近くでは100%ハンガリー語を話します。スラブ系の言語と言われているチェコ語、セルビア語、ロシア語、ポーランド語などは、スロヴェニア語と非常に似ています。

次に、スロヴェニアは地の利が良いということをお話ししたいと思います。EUの中でも非常にいいところに位置しています。つまり、東ヨーロッパ、南東ヨーロッパにも近いので、地の利が良く日系企業が操業を始めるには、格好の場所です。地図で見ただければわかりますが、コーペルという港がアドリア海に面しています。この港は、東ヨーロッパへの重要なゲートとなっています。神戸の港とコーペルの港を結ぶ直行便があるかどうか、私にはわかりませんが、日本の港からコーペル港へ荷揚げされることは頻繁に行われています。

また、スロヴェニアは高速道路も整備されています。ですから、コーペルの港に着いた荷は、東欧、ウクライナやロシアへも、高速道路を利用することで最短輸送することができます。このように港と陸上交通のアクセスの良さからも、各国に利用してもらえるようコーペル港をますます発展させようと考えています。

次のスライドにいきましょう。我々は輸出に頼った国です。GDPの7割を輸出が占めています。日本は10%ぐらいでしょう。つまるところ、スロヴェニアは、国際的であり、輸出により資金を得ています。この左側の表は、スロヴェニアの輸出に関するものですが、ご覧のとおり、EUが最も多く、国別では、ドイツ、イタリア、オーストリアと続いています。残念ながら、日本はこの中ではわずかです。これは、日本だけの責任ではなくて、スロヴェニアの努力不足もあり、大きな日本という市場に注意を払わなかったからです。このセミナーで皆さんに少しでも興味を持っていただいて、この状況が変わればと考えています。

輸出入だけではなく、あらゆることで日本とコラボレーションできないかと考えています。この右の表ですが、スロヴェニアがどの国に直接投資しているかをあらわすものですが、残念ながら日本に向けての投資はありません。日本への投資も是非やっていきたいと考えています。

先ほど、コーペルの港と高速道路のお話をしましたが、整備されたインフラとして、鉄道があります。さらに空輸では、アドリア・エアウェイズがスロヴェニアとヨーロッパの主要な都市24カ所と定期便で結んでいます。ですので、スロヴェニアにお越しになるときは、ウィーンからでも、フランクフルト、ロンドン、パリ、コペンハーゲン、バルセロナ、ローマなど、さまざまな主要な都市からアクセスをしていただくことができます。

またスロヴェニアでは、質の高い生活を送ることができます。それほど我々は気にならなかったのですが、まず安全面、EU域内の大都市は、特に安全面の問題を抱えています。

しかし、スロヴェニアは日本と同様に安全な国です。安全であることは、生活する上においてとても重要なことだと思います。これに加えて快適な場所を提供することができます。自然あふれる景勝地や多くの温泉があります。また、海外から赴任された方のための学校システムも充実しています。イングリッシュスクールがありますので、そこに通っていただくことが可能です。まだ日本人学校はできていませんが、スロヴェニアの日本人コミュニティが間もなく日本人学校をつくるだろうと聞いています。

スロヴェニアで日本語を話せる人もかなりいます。リュブリャナ大学では、日本語の科目が基礎科目としてあり、開講して10年になります。約200人の学生が日本語を学んでいますので、スロヴェニアにおいて日本語を話せる割合は、他国より群を抜いてトップではないかと思います。スロヴェニアにお越しになると、日本語を話せるスロヴェニア人に会うことができると思います。

あらゆる要素をスロヴェニアは備えています。日本で滞在経験のある私からみても、日本人の皆様がスロヴェニアに来られたら快適な生活をしていただけたらと思います。

芸術、音楽、劇場あらゆるものがそろっています。小さな国ではありますが、3つの歌劇団と5つのシンフォニーオーケストラがあります。こういった文化も持っていますので、音楽が好きな方、また芸術が好きな方にとりましても、スロヴェニアはうってつけの国だと思います。

まずは皆様、観光を目的にスロヴェニアを訪れていただきたいと思います。そして企業の皆様は、ヨーロッパでのビジネスをと考えていらっしゃるのであれば、スロヴェニアは最適の場所だと思いますので、ぜひお越しください。

東京に大使館がありますので、さらに詳細な情報をご入り用でしたら、いつでもお声をかけてください。

本日はありがとうございました。